

地区福祉推進会議における意見等

◎ 提言：特になし

◎ 意見（参考）

1. 中央地区福祉推進会議

- (1) 障害者の支援について、障害者の人権を大切にしながら健常者側の活動に取り込むことができるかが課題。健常者が障害者に働きかける際の対応の難しさがある。
- ⇒ 障害者を持っている子どもの親への支援についてなかなかまつちの事例としては、イベント型のピアサロンを定期的に開催している。参加者は自らイベントに行こうとする方々なので親同士で情報収集もでき、参加してよかったですと意見をいただいている。参加者は少ないがイベントを継続していくことに意義があると考えている。また、日常的に施設を利用している方々についてどういった思いで利用しているのか、どういった関わりを求めているのかを汲み取ながら業務に携わっている。

【参考】地域福祉支援員の活動月報より（前回会議資料にもあり）

福祉館サロンに参加している人の声かけがきっかけで、障害のある方が参加するようになり、地域福祉館の職員は「誰でも、いつでも参加出来る場所づくり」を地域の方々とすすめている。

本人は参加を喜んでいるが、他の参加者に迷惑をかけて運営に支障はないか母親は気がかりとのことで、家族と連携を取りながら楽しい雰囲気づくりに心がける。

- (2) 関わりを持っていただけない（来てくれない、来られない）方への対応について、支える側の働きかけや活動について対応に苦慮している。

⇒ 「心のバリアフリーを目指す鹿児島中央駅」として各通り会が協力してイベントを行っている。障害のある方を招いて福祉に関する体験型の講習会を行ったことで、障害者に対する意識が変わり積極的に声かけするようになった。バリアフリー観光と言う言葉もある。ハード面の整備は難しいところもあるので、ソフト面の意識を高めることを第一に組織として動いている。また、年2回中央駅祭（バリアフリーを中心としたイベント）を開催しており、車イスの方や全盲の方の参加者も多い。今秋も障害者の方達を呼んで群像前の広場でバスケットを開催予定である。

2. 谷山地区福祉推進会議

- (1) 地域福祉を推進するという意味では、各校区に設立されている校区コミュニティ協議会がその中心となるべきだと思うが、校区コミュニティ協議会の多くは福祉分野についての関心が薄く、協力が得られないなど、校区コミュニティ協議会と校区社会福祉協議会の連携・協力について疑問を感じる。

(2) 孤立しがちな高齢者等の地域での「居場所」については、行政をはじめ一元的に把握している窓口がなく、「どこに繋げばよいのか」、「課題を解決するためにどこにどのような助けを求めるべきか」などがすぐに判明しないなど、なかなか難しい点もある。

3. 伊敷地区福祉推進会議

(1) 前回策定時から、人口や生活環境も変わり、学校統廃合や地区コミュニティ継続の不安がある。今後は一層、地区及び行政の連携、人材育成が必要である。

(2) 病院や子ども 110 番のお店等を盛り込んだ安心安全福祉マップとして発展できればいいのではないか。

【参考】明和校区社協「めいわ あいまっぷ」では、子どもに関するページに、

通学路や 110 番の家、危険箇所等を地図上にあらわしたものがある。

(子ども 110 番の家の住所・氏名・電話番号の記載もあり)

4. 吉野地区福祉推進会議

(1) 町内会に入らない人が増え、加入率が 60% を切っているところがある。新興住宅あたりの加入が少ない。子どもは増えているが情報が入ってこない。

【参考】全校区 781 町内会／加入率 55% (平成 29 年 4 月 1 日現在)

(2) 町内会加入率がよくないのは、係になる負担が大きく、メリットが見えないからではないか。

5. 桜島地区福祉推進会議

(1) 校区社協が行っている福祉の分野は一部であり、将来的にはコミュニティ協議会が全体を把握して意見調整ができる組織として校区社協から変わっていくと思う。

6. 吉田地区福祉推進会議

(1) 自分たちの校区は、老人会が頑張っていて、コミュニティ協議会との協力や、「昔の遊びをしましょう」という学校の行事への参加・協力、おやじの会と一緒に緑門づくり、その後の飲み会での交流もしている。

(2) 地域で活動内容が同じようで違う。自分の校区も老人会活動が活発で、先日は灯籠づくりをした。ただ、参加するメンバーがいつも同じで、本当に手を差しのべたい方は出てこられない。

7. 喜入地区福祉推進会議

(1) 行事を行うことで地域のつながりができていたと思う。各地域の行事を復活することで連携が生まれ、福祉充実につながると思う。

8. 松元地区福祉推進会議

- (1) 昨年の推進会議で出た、東昌、春山、松元の買い物支援希望について、春山校区に、麦の芽と生協が提携した移動店舗が来ており、好評である。

【参考】地域福祉支援員の活動月報より

松元地区3校区（松元校区・東昌校区・春山校区）で困り事の買い物等について継続して、移動店舗の情報提供を行う。現在、春山校区の3ヶ所で麦の芽福祉会の移動店舗を利用している。他の校区からも利用したいとの要望時は情報提供を行う。

9. 郡山地区福祉推進会議

- (1) さりげない見守りが大切。監視と捉えられないよう日頃の付き合いが大切。

【参考】地域福祉支援員の活動月報より

シルバー人材センターのワンコインサービス担当職員より情報収集。

現在、シルバー人材センターの登録者が3,200名おり、内ワンコインサービスを提供する登録者は100名いる。ごみ出し支援等を定期的に行っており、訪問時に利用者が倒れていたところを119番通報し、救急搬送されて救われた事例があり、見守り活動に繋がっている。